

有害プランクトン情報 (令和6年度 - No. 3)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類の死亡や二枚貝の毒化を引き起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- 調査日 沖合 6月 第1回 内湾 (8地点) 6/12 内房 (7地点) 6/3
6月 第2回 内湾 (8地点) 6/17 内房 (7地点) 6/24
貝類漁場内 九十九里地区 6/3, 12, 25 (生産技術研究室が担当)
千葉北部地区 6/3, 17 木更津北部地区 6/6, 18
木更津南部地区 6/4, 17

東京湾(内湾)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を發出します。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上) は、6/12 の船橋や羽田沖で見られました。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 沖合漁場および貝類漁場内でディノフィシス アキュミナータが確認されました。6/12 の沖合漁場の千葉灯標でやや高い密度でした。
 - ・ 6/3 (貝類漁場) 千葉北部地区 密度は 0.25 細胞/mL
 - ・ 6/4 (貝類漁場) 木更津北部 密度は 0.3 細胞/mL
 - ・ 6/12 (沖合漁場) 内湾全域 最高密度は千葉灯標の 4.85 細胞/mL
 - ・ 6/17 (貝類漁場) 千葉北部地区, 木更津南部地区 最高密度はともに 0.55 細胞/mL
 - ・ 6/17 (沖合漁場) 内湾全域 最高密度は盤洲北の 1.2 細胞/mL
 - 沖合漁場および貝類漁場内でディノフィシス ロツンダータが確認されました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・ 6/4 (貝類漁場) 木更津南部地区 密度は 0.05 細胞/mL
 - ・ 6/17 (貝類漁場) 千葉北部地区 密度は 0.05 細胞/mL
 - ・ 6/12 (沖合漁場) 船橋、アクア北、盤洲北、盤洲南 最高密度は盤洲南の 0.2 細胞/mL
 - ・ 6/17 (貝類漁場) 千葉北部地区 密度は 0.05 細胞/mL
 - 沖合漁場でディノフィシス コウダータが確認されました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・ 6/12 (沖合漁場) 船橋、羽田沖 密度はともに 0.05 細胞/mL
 - ・ 6/17 (沖合漁場) アクア北 密度は 0.05 細胞/mL
- 3 麻痺性・下痢性ともに貝毒の被害情報はありませんでした。
(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータが確認されました。6/3 の浦賀水道でやや高い密度でした。

- ・ 6/3 (沖合漁場) 岩井と富浦を除く内房全域 最高密度は浦賀水道の 2.05 細胞/mL

- ・ 6/24 (沖合漁場) 浦賀水道と富浦を除く内房全域 最高密度は富津南と大貫の 0.35 細胞/mL

- 沖合漁場でディノフィシス コウダータが確認されました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 6/3 (沖合漁場) 浦賀水道 密度は 0.05 細胞/mL

- ・ 6/24 (沖合漁場) 大貫 密度は 0.05 細胞/mL

- 沖合漁場でディノフィシス ミトラが確認されました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 6/3 (沖合漁場) 保田 密度は 0.1 細胞/mL

3 麻痺性・下痢性ともに貝毒の被害情報はありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

九十九里海域(旭～一宮沖貝類漁場)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 貝類漁場でディノフィシス アキュミナータが確認されました。低密度ですが、注視が必要です。

- ・ 6/3 (貝類漁場) 0.05 細胞/mL

- ・ 6/12 (貝類漁場) 0.10 細胞/mL

- ・ 6/25 (貝類漁場) 0.25 細胞/mL

3 麻痺性・下痢性ともに貝毒の被害情報はありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

